

概要

世界中の学界で注目されているグローバルヒストリー研究の国際的ネットワークを、世界主要地域の拠点大学と協力して構築し、大阪大学文学研究科をその中心に位置づけることで、日本からの研究面での情報発信と、若手研究者（院生・ポスドクを含む）の活躍の場を創出する。大阪大学における世界史研究に関係した研究者が部局横断的に結集し、研究セミナー・ワークショップや、外国人研究者を招聘した国際会議等を通じて、アジア太平洋地域における研究・教育のハブとして活動することを目標としている。

組織・体制

2014年に開設された全学的研究組織・先導的学際研究機構（The Institute for Open and Transdisciplinary Research Initiatives: OTRI <http://otri.osaka-u.ac.jp/>）「グローバルヒストリー研究部門」（25名で構成する各研究科横断の研究機構）のメンバーと協力して活動している。

文学研究科世界史講座では、従来から、グローバルヒストリーに関して具体的な研究課題を設定し、世界的に注目される業績を蓄積してきた。すなわち、①中央ユーラシア史研究：古代・中世のユーラシア遊牧民・商人の活動を、モンゴル帝国に代表されるアジアの諸帝国の興亡と関連付けて考察する、②海域アジア史研究：中近世から近代初頭の、日本を含む国家間の交渉・相互認識と、商人・通商ネットワークの関係を考察する、③アジア国際経済秩序研究：近代以降のアジア独自の国際経済秩序の形成・発展を、世界システム論の見直しを通じて考察する、以上の三点である。大阪大学は、古代から現代まで一貫して、通時的な世界史研究を行っており、近世世界や近現代史の研究に特化した欧米の他の研究拠点とは異なる長期の時間軸を持ち、日本を含むアジアの観点から、第一次史料に基づいて実証的な研究を展開してきた点で、独自性を有している。我々は、この三群の研究成果をさらに緊密に結びつけて、アジアから見たトータルな独自の世界史像を構築することを目指しており、その際に、旧大阪外大が蓄積してきたアジア地域研究の成果も取りこんでいる。

同時に、「社会学連携」による研究成果の広範な情報発信を通じて、大阪大学における文系部局の研究成果を広めることも重視している。具体的には、毎月一回開催している「大阪大学歴史教育研究会」を舞台に、全国の中等教育の歴史教員、マスコミや教科書会社の関係者等との討議・情報交換・共同企画を通じて、歴史認識・歴史教育に関する問題提起を行っている。

こうしたグローバルヒストリー研究は、歴史学だけでなく、「日本学」(Global Japanese Studies)を含めたアジア地域研究、国際関係論、比較文明論、世界システム論、現代経済論など、多岐にわたる隣接諸領域の研究ともリンクしてくる。このような分野横断的で学際的な性格と、高度な国際的コミュニケーション能力が求められることから、既存の分野や領域を超えて国際的に活躍できる若手研究者の育成も可能になる。

活動状況

2022年度は、Covid-19のパンデミックが収束してくるなかで、対面による国際交流活動を再開する一方で、オンラインも最大限活用して、大阪からの情報発信を続けてきた。

活動の中心に置いたのは、三つの国際共同研究である。第一の協同・連携は、アジア太平洋地域におけるグローバルヒストリー研究のハブ・ゲートウェイとして、2008年に結成されたアジア世界史学会（The Asian Association of World Historians: AAWH、本部事務局は2022年10月まで大阪大学文学研究科）との連携強化である。AAWHは、3年に一度の国際会議（2009年：大阪大学、2012年：韓国・梨花女子大学、2015年：シンガポール・南洋理工大学、2019年：大阪大学）を開催しているが、我々はAAWHを結節点として、アジアで世界史・グローバルヒストリーを研究する学者との連携・交流を強化するなかで、我々が目指す「アジア発の世界史研究」の充実を目指している。

Covid-19のため開催が1年延期されていたAAWH第5回大会が、2022年10月12-13日に、インド・ネルー大学が主宰校となって、ニューデリー中心部のインド国際センター(Indian International Center: IIC)で開催された。会議のメインテ

ーマである *Asia and the Globe: Connecting the Past with the Present* および7つのサブテーマに関して、対面及び ZOOM オンライン、Hybrid の三つの形式により約 30 のパネルが組織され、全体で 350 余名の参加者があった。阪大からは AAWH の会長を務める秋田が、”Jawaharlal Nehru and Afro-Asian Solidarity”と題する基調講演を行うとともに、10 名の報告者が各パネルで研究報告を行った。

第二の国際共同研究が、日独 6 大学の国際連携組織である日独六大学学長会議 (HeKKSaGOn) との連携で、2023 年 9 月にゲッティンゲン大学で開催される第 8 回会議に向けて立ち上げた 4 年計画のグローバル歴史共同研究プロジェクトである。ハイデルベルク大学、ゲッティンゲン大学、京都大学、東北大学の研究者と共に、2022 年 11 月-3 日に第三回 ZOOM Workshop “*Transwar and Transimperial History in the Asia-Pacific---Decolonization, Development and Resources*” を開催した。2023 年 1 月にはハイデルベルク大学で英語論文集の刊行のため編集会議を開催した。

第三の国際共同研究が、2022 年 7-8 月にかけてあいついで開催された世界経済史会議 (WEHC:パリ) と、国際歴史学会議 (CISH:ホズナン) に参加して、大阪でのグローバル歴史研究の成果の一端を、国際的に情報発信することである。前者では、秋田が科研共同研究のグループを中心に、パネル “The Oil Crises and Transformation of International Economic Order of Asia in the 1970s” を組織した。後者はオンライン参加ではあったが、Roundtable: How to write a world history in the 21st century で秋田が、‘Creating Global/World History from Asian Perspectives’ と題して、AAWH をはじめとする阪大でのグローバル歴史研究の現状と課題について報告した。また、新たに Nadin Hee 先生を中心にグローバル環境史の共同研究を始め、2023 年 3 月にワークショップ *Pacific Histories across Species and Borders* を開催した。

以上に加えて定期的に、Osaka University Global History Seminar (研究会) と、京都産業大学・フィンランド/ユヴァスカラ大学との共催で Global History Lecture Series (ZOOM 講演会) を開催している。講師としては、世界の主要大学でグローバル歴史研究を展開する研究者を招聘して、英語・日本語で討議を行い、若手の積極的な参加・発言を促してきた。2022 年度は 10 回のセミナーを、2020 年 9 月から開始した Global History Lectures は 3 回開催した。詳細については、<http://www.globalhistoryonline.com/> (日英二か国語で掲載) を参照していただきたい。



本グループが力を入れているもう一つの柱である社会貢献活動としての「歴史教育と歴史学」に関しては、大阪大学歴史教育研究会と協力して、年間 9 回の月例研究会で、高等学校で第一線の教育者としてご活躍の先生方をお招きして議論を重ねている (<https://sites.google.com/site/ourekikyo/>)。2022 年度は、特集「トランスインペリアル・歴史から考える新しい帝国史・植民地史」を企画し、院生・若手研究者の主体的な学習を促している。成果は、『大阪大学歴史教育研究会活動報告シリーズ』No.20 として刊行した。

文学研究科を中心とするグローバル歴史研究は、今後とも、アジア太平洋地域における新たな世界史、グローバル歴史研究のハブとしての役割を果たしていきたい。

(秋田 茂)